

# ネギアザミウマにおける 産雄単為生殖型の発生状況と薬剤の効果

## 1. はじめに

ネギアザミウマは、成虫の体長が1～2mmほどの微小害虫で、ネギ、タマネギ、ナス、カキ等多



図1 ネギアザミウマ成虫

くの作物に寄生します(図1)。国内に生息するネギアザミウマには2種類の生殖型が確認されており、未受精卵から雌のみ発生する『産雌単為生殖型(以下、産雌型)』と、雄が生じる『産雄単為生殖型(以下、産雄型)』が存在します。元々日本では産雌型のみ確認されていましたが、近年、産雄型の分布が拡大しています。一部の府県では生殖型と薬剤の感受性低下との関係が調べられており、産雄型への殺虫効果が産雌型に比べて低い事例も報告されています。本県では、2022年に産雄型が初確認されたため、県内のタマネギ圃場における産雄型の発生状況と主要薬剤の感受性を調査しました。

## 2. 産雄型の発生状況

圃場から採取したネギアザミウマ雌成虫を個体飼育又は遺伝子診断(PCR-RFLP法)で生殖型を判定しました。その結果、ほぼすべての圃場で産雄型の発生が確認され、一部の圃場では産雄型が優占することがわかりました(図2)。

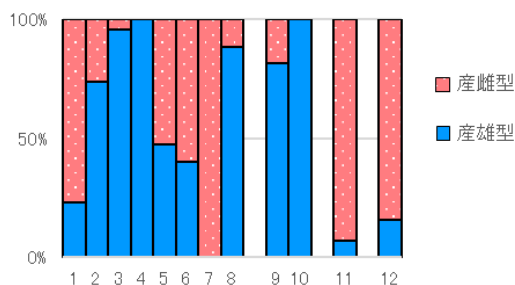


図2 タマネギ圃場12ヶ所の産雄型、産雌型割合

※1-8 紀の川市、9、10 岩出市、11 御坊市、12 印南町

## 3. 主要薬剤の効果試験

紀の川市のタマネギ圃場で採取した個体群について、試験を実施しました。薬剤に浸漬した餌(インゲン葉)をネギアザミウマ雌成虫に与え、48時間後の補正死亡率により効果を判定しました(柴尾, 2013)。その結果、アグロスリン水和剤の殺虫効果が低いと考えられました(図3)。

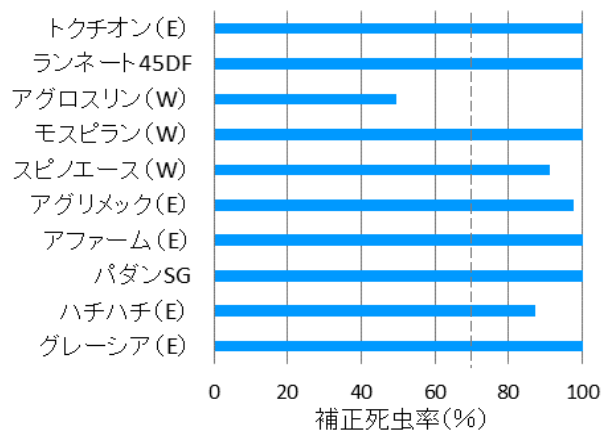


図3 ネギアザミウマに対する各種薬剤の効果

※薬剤名の(E)は乳剤、(F)はフロアブル、(W)は水和剤の略。  
※補正死亡率70%以下を殺虫効果が低いと判定。

## 4. おわりに

本試験で、本県にネギアザミウマ産雄型が分布していることが明らかになり、一部薬剤の殺虫効果が低い事例が確認されました。殺虫効果の低い薬剤の使用を避けるとともに、圃場周りの除草や収穫後残渣の処分徹底等の対策も行ってください。

(環境部 菅野伸哉)

農業試験場ニュース No.145

令和7年1月発行

編集・発行 和歌山県農業試験場

〒640-0423 和歌山県紀の川市貴志川町高尾160

電話：0736-64-2300(代) FAX：0736-65-2016

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/>

[070109/gaiyou/001/nougyoushikenjyou/top.html](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/001/nougyoushikenjyou/top.html)